

# ツイッター 小説



201012 春昼

今日は大学の卒業式だ。講堂に行くと、卒業生全員泣いていた。  
今年の内定者はゼロ。僕自身も卒業後、ホームレスになる。

保護者も教授たちも泣いている。学問が無力になった。

人間が脳内で考えていることが、リアルタイムでインターネットに流出するサービスが開始されました。ウィキツイッターとかいうそうです。

携帯端末をパンツのポケットに入れているだけで、脳の中で考えていることが情報処理され、ネット上に文字表示されていくそうです。

娘の幼稚園の入園式に行った。娘以外の新入園児は全員大人だった。

「みなさんもう一度幼稚園に入りたいと申されまして」と園長先生が言う。新入園児たちはみんな落ち着きなくはしゃいでおり、楽しげな様子だ。幼い娘とかわりないように見える。

僕は手に5000本のナイフを持っている。僕の前に銃を1丁持った兵士がやってきた。僕は両手をあげた。

「手に持っている武器を放せ」兵士が言う。手の力を抜く。5000本のナイフが地面に落ちて散らばった。何本かは地面に刺さり、何本かは僕に刺さった。攻撃と勘違いした兵士は、僕に発砲した。

5000本のナイフを手に持っている少年が僕の前に現れた。テレビで話題の連続殺人犯だ。

僕は両手をあげて、降伏の意思を示した。殺人犯相手に降伏の意思を示すことに意味はあるだろうか。殺人犯はルールに従わないのではないか。「死ね」予想通り、5000本のナイフが僕の体に放たれた。

休日の高級住宅街。ペットの散歩に連れ添っている富裕層が多い。  
。

すれ違うペットの犬はみんなゾンビ犬だった。肌は腐食しており、歩いた後には内臓が零れ落ちている。飼い主はペットがゾンビだと気づいていない。僕が幻覚を見ているだけかもしれないが、散歩中に分裂した犬もいた。

彼女は街を歩いている、葬式を見つける度、弔問に訪れる。

葬式は普通、故人と親しい人が出席するものだが、彼女は見知らぬ人の葬式にも出席したいという。

誰かが死んだということ、そのことをただ悼み、祈りを捧げたいのだという。

彼は街を歩いていて結婚式を見つける度、式場に顔を出す。

結婚式には普通、新郎新婦に招待された人だけが出席するものだ。  
。

彼は見知らぬ人の結婚式にも出席し、男女の契りを祝福した。

ただ人と人が愛し合い、ともに生きていこうとする門出の日を祝いたいのだという。

彼女は道を歩いていて、お墓を見つける度、墓参りに行った。

彼女の縁者の墓ではない。見ず知らずの人の墓でも、その人がかつて生きていたということ、今はもう亡くなっているということを弔いたいのだという。

彼女は墓地の墓全てに頭を垂れて、祈りを捧げた。

彼は道を歩いていて病院を見つけると、赤ちゃんのいる部屋に向かい、子どもたちの誕生を喜んだ。

自分の知り合いの子どもがいるわけではない。彼は見知らぬ母親の出産の労をねぎらい、赤ちゃんの成長を願った。

ただこの世に新しい命が生まれてきたこと、それだけで奇跡なのだという。

クリスマスイブの深夜、子ども部屋にサンタが忍び寄った。

サンタは窓の施錠を特殊器具で解除し、子ども部屋に侵入した。

娘はサンタの侵入に気付かなかった。

サンタはクローゼットをあさり、娘の靴下を探そうとした。

娘が目覚める。

部屋にいるサンタを見て、娘が悲鳴をあげた。

「誰！？ 警察呼ぶよ」

「メリークリスマス、サンタです」

娘はサンタクロースを不法侵入者だと勘違いした。

「鍵閉めてたのに勝手に入ってこないでよ」

「プレゼントを持ってきました」

サンタが袋から箱を取り出す。

「フリーズ！」

娘がサンタに銃を撃つ。

老衰したサンタは重傷を負った。

重傷を負ったサンタは慌てて隣の敷地に逃げ込んだ。

窓の施錠を解除して、屋内に侵入したら、警告音がなり始めた。

戸惑うサンタさん。警備員が駆けつける。

サンタは身柄拘束された。

「私サンタです。メリークリスマス」

「いい加減にしろ」

子どもたちへのプレゼントも押収されてしまった。

家宅不法侵入罪で逮捕されたサンタさん。

釈放されたら、クリスマスが終わっていた。

東京拘置所の前では、ミニスカサンタが商品宣伝のポケットティッシュを配っている。

通行人はみなミニスカサンタに目をとめるが、本物のサンタの存在には気づかなかった。

ある小学6年生の女の子は、毎年クリスマスイブにサンタを目撃していた。

今年、サンタは彼女の部屋に来なかった。

25日にテレビをつけると、サンタに扮した男が家宅不法侵入で逮捕されたというニュースがやっていた。

あのサンタ本物じゃね？というネタでネットは盛り上がっていた。

逮捕されたサンタのそりと、子ども用のプレゼントは窃盗品として没収された。

トナカイも、動物輸出条約違反として没収された。

故郷のおとぎの国に帰れなくなったサンタは、上野公園で配給の豚汁をもらうことにした。

サンタは、子どもたちにプレゼントを配れなくて、申し訳ないことをしたと思った。

けれど上野で出会った子どもたちはみな、満足気な様子だった。

親がサンタの代わりにプレゼントを買い与えているらしい。

子どもたちが手にしている携帯ゲーム機は、サンタにはおもちゃに見えなかった。

子どもたちにプレゼントを配る仕事から失業したサンタさんは、上野公園で過ごした後、新宿に移動した。

駅前の家電量販店に入ってみる。

おもちゃ売り場に行ってみたが、テレビゲームしかおいていない。

レジの店員たちがみなサンタと同じ赤い帽子をかぶっていたので、サンタは驚いた。

「ちょっとあんた、こっちでお客様ご案内して」

フロア主任が本物のサンタクロースを呼びつけた。

サンタのコスプレをしたヘルプスタッフと勘違いされたようだ。

サンタはおもちゃ売り場の入り口に立ち、「メリークリスマス」と声を上げた。

「いらっしゃいませだろ」

主任に怒られた。

子どもたちはゲームを買ってもらって嬉しげだ。

大人もゲームを買っている。

はて、クリスマスには大人もおもちゃを欲しがるのか？

サンタは首をかしげた。

売り場入り口には、巨大モンスターと戦士たちが戦うゲームのデ

モ映像が映っている。サンタには、魔法だとしか思えなかった。

サンタはおもちゃ市場の動向について知らない。  
テレビゲームもやったことはない。  
数百年前と同じおもちゃを配り続けている。

1950年過ぎから、子ども達はサンタのプレゼントを喜ばなくな  
った。

流行は変わり続ける。

最近は子ども部屋に入るのも難しくなった。  
とじまりが嚴重なのだ。

「主任、あの怪物は何ですか？」

「モンハンだよモンハン。知らないの？ ちゃんと売れ筋商品勉強しておかないと駄目だよ」

質問しただけなのに怒られてしまった。

子どもたちは巨大モンスターと戦う遊びをしているのか。

サンタが子どもの頃にはなかった遊びだ。

悪くないなと思った。

休憩時間、サンタは生まれて初めて携帯型ゲームを試してみることにした。

40代独身の主任から操作方法を教わったが、難しく理解できない。

主任に協力してもらって、最初の巨大生物を倒すことができた。

来年から、プレゼントの中身を考えなきゃならんなどとサンタは反省した。

サンタがプレゼントを配り始めた頃の社会は貧しく、子どもたちがおもちゃを買ってもらうことは珍しかった。

子どもたちはみな自然で遊んだものだ。

最近サンタがプレゼントを配る必要もない。

親がサンタクローズになっている。

経済的に発展した社会で、サンタは存在意義を見失った。

バイトを終えたサンタは、公園で眠ることにした。  
公園のゴミ箱にはまだ読める新聞が捨ててある。

新聞紙を開くと、バス通り魔事件や、殺人事件のニュースが踊っていた。

おもちゃ売り場にいた人々は楽しげな様子だったが、繁華街を離れると、暗い顔をして歩いている人も多い。

翌日もサンタは、新宿駅前の家電量販店でサンタクロースのバイトをした。

新宿駅前には、キリストの教えがスピーカーで宣伝されている。

買い物客は誰もキリストの教えに耳を傾けていない。

「あれって危ない原理主義みたいよ。ウィキペディアに載ってた」主任がサンタに教えてくれた。

おもちゃ売り場の主任は『もしドラ』という本を読んでいた。

女子高生がドラッカーという経営学者の本を読んでいたら野球部のマネジメントがどう変わるか？という内容の本らしく、今年のベストセラーだという。

「サンタさ、お前もおもちゃ売りたいなら、こういうのちゃんと読まなきゃ」

「私はおもちゃを売って儲けたいわけじゃなくて、子どもたちが喜ぶ顔を見たいだけなのです」

「そんなこと言ったって、利益を出さなきゃ生きていけないだろ」

主任はサンタに『もしドラ』を渡した。休憩時間、サンタは『もしドラ』を読んで、マネジメントについて勉強することにした。

サンタクロースは、主任から貸してもらった『もしドラ』を休憩時間や就業後に読み続けた。

現代社会は、知的技術の発展が累積したために、売れるおもちゃが毎年変わるようになってきたらしい。今年『モンハン』が売れたとして、来年も『モンハン』が売れる確約はないのだ。サンタは困った。

サンタクロースは日本でプレゼントを配る必要がないと思った。

街中におもちゃが溢れているし、子どもたちはサンタの知らないゲームソフトで遊んでいる。大人が子どもにおもちゃをプレゼントする。

社会はこれだけ豊かになった。サンタのプレゼントは不要なのだ。  
。

サンタは日本を離れて、貧しく、飢餓や紛争が溢れている国に向かおうかと考え始めた。

サンタのプレゼントを必要としている国は、世界にたくさんある。日本は恵まれている。

サンタには国家間の経済格差が異常だと思えた。

サンタは新宿の公園で拾った新聞を読んだ。

日本には殺人事件や家庭内暴力が溢れている。新宿にもホームレスがいる。

繁華街を歩く人はあれだけ幸福そうなのに、新聞にこれだけ不幸が溢れているのは何故だろう。

不幸が珍しいからニュースになるのか、不幸な人は街に繰り出さないのか。

繁華街だけを歩いていたら、サンタは自分の存在意義を見失いそうだが、ニュースを見る限り、サンタの力を必要とする人は、日本にたくさんいると思えた。

サンタは来年も日本でプレゼントを配ることにした。

警察にそりとトナカイと袋を没収されたが、来年までには何とかなるだろう。

サンタはバイト先のおもちゃ売り場の主任に辞職の挨拶をした。

「実家に帰ります」

「そうか残念だな。お前、子どもたちに気に入られてたのに」

「この売り場におもちゃを買いに来ない子と親たちのために、働こうと思うのです」

星の王子さまがサンタを迎えるため、新宿に降り立った。

サンタは主任のおごりで、歌舞伎町で飲んでいた。歌舞伎町の飲み屋に星の王子さまが顔を出す。

「アプリボワゼ」星の王子さまが手を差し伸べる。

「アプリボワゼ」サンタと星の王子さまが握手する。

二人の体が歌舞伎町から消えた。

自分は何の役にも立っていないのではないかという自己不信感があるとする。

本当に社会に役立っていないのなら、給料がもらえないはずだ。

給料をもらっているということは、大変ありがたいことのはずなのに、いつのまにかありがたみを忘れてしまう。自己不信感とはお別れしたい。

毎日たくさんの人に迷惑をかけている。

生きると、迷惑をかけざるをえない。多くの人世話にならざるをえない。

できるだけ人の迷惑にならないように、できるだけ多くの人のためになるように、意識して生活できるように。

自分の生きる業と力。

地下鉄を毎日当たり前前に利用しているけれど、地下鉄がなければ大変不便になる。

当たり前前に受容しているサービスの恩恵を意識してみることに。

世界には良質のサービスが溢れている。

「強い自己を保つこと。流されないこと。欲望にとらわれないこと」

「昔からある古い価値だし、現代では散々批判された価値観だけど、そんなものを意識しようとするの？」

「そうした方が生きやすいから、そう生きるだけ」

20年後の僕は一体何をしているのか。

今日僕が成した選択の積み重ねで、20年後の僕ができている。

20年の間に社会は激変するだろうけど、僕の意志でコントロールできる部分は、できる限りコントロールしたい。

自己の権利を失わないように。

人間が生きているうちに実現できることには、限りがある。

時間がたくさんあるから、何でもできると思いがちだけれど、選択肢は少ない。

何を選ぶのか。

一秒も無駄にできないと知る。

こうしてつぶやく一秒さえも、テレビを見る時間も、無駄にできない。

人生は毎日がプレゼンテーション。

プレゼン。

自分が一番大切に重要だと思うものを多くの人にプレゼントすること。

贈り物としてのマイ・ライフ。

人生は毎日がプレゼンテーション。

プレゼン。

サンタクロースが世界中の子どもたちにプレゼントを贈り届けるように。

何故サンタさんはクリスマスの日、子どもたちにプレゼントを贈り届けるのか。

年に一度の祝福の日だから？

生まれ出たことの喜びをわかちあうために？

やましいことをしている時、いつも誰かに見られていると思うと、ストレスがたまる。

自分で正しいことをしていて、かつ報われないというストレスを抱えているなら、いつも誰かに見られていると思うと、ストレスが軽減される。

大丈夫、いつも誰かが見守ってくれている。生を続けていい。

地上に人間は六十億人以上いるけれど、空の上にも人間は六十億人以上いる。空の上にいるのは、過去に死んでしまった人たちだ。

メリークリスマス。今まで生まれて、空の上に出ていった人たちへ。

地上で幸せだった人、不幸だった人にも祝福を。

何かを欲して、満たされないとストレスが募る。個人の自己実現を求める社会は、個人に欲望実現を迫っているのだと思う。

何かを求めて満たされない状態から解放されたいと思っていたら、星の王子さまの声が聞こえてきた。

「既に手にしているもので満ち足りることができるよ」

クリスマスプレゼントを配り終わったサンタさんの声も聞こえてきた。

「私たちは、生まれながらにたくさんのプレゼントをもらっているよ。この地球に生まれてきたこと自体がギフト。何かを外に求めるより、既に持っているものを愛してみたら？」

部屋の中には、もらったのに大切にしていないプレゼントがたくさんあった。

新しいものをどんどん部屋の中や自分の頭の中に入れる。十分味わう前に、次のものを求めてしまう。求めても手に入らないから、ストレスがたまる。そして頭痛薬に頼る。

使っていないギフトに目を向けてみよう。

毎日毎日ホームレスの人を見ていたのに、12月になったら見なくなりました。

死んだのか、引っ越したのか、僕が見落とすだけなのか、詳細は不明だ。

そうやっていつのまにか人が現実から落下していく。

昨日の夜中から朝にかけて、大雨が降った。

屋根のある部屋に住んでいるなら、雨は健康を脅かさない。

路上で暮らすなら、大雨は生死の危機にもなり得る。

何故僕の家付近にホームレスの人たちが多いのか。

理由はわからなかったけど、大雨が降って気づいた。

商店街の歩道はアーケードになっている。

屋根が雨から体を守ってくれる。

こんなことさえも、雨が降らなければ気づかなかった。

プーチンはバットマンで、メドベージェフはロビンだと、アメリカの外交官僚が言った。これは2ちゃんねるの中二的書き込みと同じレベルの陰口だ。

ウィキリークスによって、明らかになったこと。外交のエリートと2ちゃんに書き込みしている中二的な人は、同じ水準の思考をしている。

2ちゃんねるの登場後、日本人ってこんなに人種差別的で排外的で性暴力的で欲求不満なのかと思われたけれど、表に出てこない情報が全て公開されれば、人間誰もが2ちゃん的な思考をしていることが明らかになる。

全ての情報が可視化されるとは、無意識の欲望が暴かれるということだ。

情報技術が発達する以前の社会では、無意識に抑圧された思考が表に出なかった。現代では、無意識下にあった欲望、暴言が全て情報公開されうる。

欲望が全て可視化された後でも、人間は公的活動を続けられるのか。

情報公開を制限するより、人間のライフスタイルを変える必要がある。

19世紀的に抑圧を強化したり、隠蔽、防衛する方向で思考しても、ネ申的ハッカーが隠された情報を暴いてしまう。

なら、欲望が全てオープンになったとしても、みんなと仲良く共存できるライフスタイル、社会制度に移行した方がいい。

君も欲望まみれなんですよとみんなで肯定する社会。

クリスマスのBGM,

広告、商品が街中に溢れている。この喧騒を聞いて楽しくなる人と、寂しさが増す人、どっちの数が多いんだろう。

僕も含めてだけど、2010年の12月は、寂しくなる人の方が多いと思う。

2010年は、単身世帯の数が、家族のある世帯数より多くなったそう  
うだ。

単身世帯でも友人付き合いしている人は多いだろうけど、将来の  
不安、経済的不安、寂しさ、孤独に包まれている人も多いだろう  
。

クリスマスの楽しいメロディーは、ある種の人を憂鬱にする。

音楽は薬物のように人間を幸せにはできない。どんなに合理的に計算して感情的効果を狙ったとしても、狙いは的中しない。

クリスマスの陽気な音楽を聴いて陽気な気持ちになる人もいれば、憂鬱と孤独感をさらに増す人もいる。

人間は複雑だ。楽しい音楽が哀しみを増す場合もある。

歌舞伎役者は何も悪いことしてないと言っているのに、何故か謝罪会見をした。

ウィキリークスの主催者は性犯罪容疑で逮捕された。どう考えても別件逮捕ってやつだ。

個人を逮捕しても情報流出の流れ、止められないと思うけど。むしろ情報流出しても全然オッケーな社会体制にしないと。

全ての情報が、あらゆる人々にアクセス可能になる理想の情報社会。それをグーグルもウィキリークスも求めている。

秘密を保持したい国家は情報革命を嫌がる。

グーグルは中国からサイバー攻撃を受けるし、ウィキリークスはアメリカからサイバー攻撃を受けるし、別件逮捕までされる。

ストイックよりもゆったりゆったり

エゴイステイックよりも集合知

美よりも萌え

S Mよりもツンデレ

これこそグローバル競争時代に必要なギークの教えだ。

深夜アニメが日本と世界にばらまいている時代の価値観だ。

中国がノーベル平和賞に変わる独自の平和賞を創設。

欧米中心の文化規範に対して、アジア独自の価値評価制度を作ろうとする対抗心はわかるけれど、何だかこういうのを見ていると、20世紀前半の、とある国の歩みを見ているような気持ちになる。

ネットでは、海外の飢餓の子どもたちに募金を呼びかける広告がよく見られるけれど、日本の子どもたちもコンビニ食などで栄養不良になっているし、虐待や育児放棄の被害にあっている子どもも多い。

物質的に豊かな国での子どもの被害は、募金によっても解決できないんじゃないか。

バス通り魔事件の容疑者は、1年前に仕事を辞めていたという。不満が鬱積して人生が嫌になったそう。当然恋人などいそうにない。

クリスマス、年末年始で街と広告は浮かれムードだけれど、一体どれだけの人が幸せなのか。

どれだけの人が孤独と不満を募らせているのか。

民主党小沢元代表が執行部を批判とか、証人喚問に応じないとか、バス通り魔事件のニュースを前にすると、本当どうでもいい話。

内輪もめをしている暇があったら、この国をどうにかして欲しい。

といっても、代議士を選んでいるのは投票権のある国民であり、政治家だけを批判できないが。

「何も書くことがない。ということを書いている。ということは、何も書くことがないというのは嘘だ」

「あなたに何も話しかける気がしない。ということをおあなたに話しかけている。あなたに何も話しかける気はないというのは、嘘だ」「嘘つき」

「嘘つき」

「それもまた嘘つき」

「好き」